

国際コンファレンス アジア市場の統合と金融革新



セッション1：世界金融危機後の金融市場改革とアジアへのインプリケーション

世界金融危機後の金融市場改革とアジアへのインプリケーション

リー・チュアン・テック

シンガポール金融管理局 (MAS) アシスタント・マネージング・ディレクター

概要

2008年および2009年の金融危機の経験から、いくつかの教訓を引き出すことができる。教訓の内容は、次の3つのカテゴリーに分類できる：(i) 資本市場のプレーヤーの間で利益の不一致が生じた；(ii) 店頭（OTC）デリバティブ市場に構造的な欠陥があった；(iii) 金融コングロメリットに関してクロスボーダーな破綻処理の枠組みが必要だった。アジア諸国は、アジアの市場特性に適合した改革を進めるべきであり、国際金融システムの最新の規制動向を考慮しながらも、西欧的な全面改革とは一線を画す注意深さが必要である。金融市場改革の歩みを止めてはならないが、欧米市場と同様の規制がアジアで常に機能するとは限らない。また、アジア各国は、先般の金融危機で生じた問題に対応するだけでなく、アジア地域のニーズや課題を見据えて、積極的に行動を起こす必要がある。例えば、アジアは、大量の資金流入を適切に仲介するために、金融市場の拡大と深化を図る必要がある。これは、アジア市場の統合がさらに進むことで実現しうるだろう。現在、様々な地域的取り組みがアジア各地で行われている。例えば、アジアの規制当局は ASEAN 資本市場フォーラム（ACMF）というプラットフォームを設立し、次のような仕組みの導入に向けて作業を続けている：(i) 目論見書の相互承認；(ii) セカンダリー・リスティングの上場審査の迅速化 (iii) 集団投資スキームの相互承認。また金融業界では、円滑なクロスボーダー取引を推進する目的で、ASEAN 貿易リンクエッジを構築しようとしている。上記のような取り組みを通じて、アジアの金融・貿易市場がより一層統合されていくものと期待される。